



株式会社宮崎ジャムコの第2工場が本格操業

3月25日、(株)宮崎ジャムコの第2工場がお披露目となりました。第2工場では、航空機のファーストクラスやビジネスクラスで使用する主要部品の量産組み立てを行っています。若者の都市部への流出が課題となっている本市にとって、先端技術に携わるチャンスがあることは雇用創出の強みです。これを契機としてさらなる航空機関連産業の集積が期待されます。

大塚製薬株式会社と包括的連携協定を締結

3月28日、宮崎市と大塚製薬(株)は、教育・文化、医療・福祉、産業・観光、環境・防災などの分野で、協力して取り組んでいくために、包括的連携協定を結びました。市はトータルヘルスケアを掲げる大塚製薬と連携することで、市民の健康づくりや防災対策などに繋がっていきます。

宮崎市・大塚製薬株式会社 包括的連携協定締結式



Miyazaki Topics

宮崎市旬の話題 “みやとピ”

宮崎市香港観光大使を委嘱

3月30日、香港～宮崎線の就航1周年を契機として、香港の大手旅行代理店EGL ツアーズの袁文英社長に「宮崎市香港観光大使」を委嘱しました。本市が観光大使を委嘱するのは初めてで、クスノキを使った委嘱状と観光大使としての名刺が手渡されました。袁社長からは、「宮崎市への外国人観光客の更なる誘客促進・PRへ協力していきたい」と力強い言葉をいただきました。



加納地区交流センターが完成

加納中学校区の公立公民館として「加納地区交流センター」が完成し、4月2日、落成式が行われました。この交流センターは生涯学習や地域コミュニティ活動の拠点施設として、学習室、料理実習室、多目的ホールなど、さまざまな機能を備えています。これから地域住民の交流の場として活用され、地域の絆がますます深まることが期待されます。

昭和60年6月号が電子書籍で読める!



今回の旅行先
昭和60年6月
市広報が届くまで...

今回発掘するのは、昭和60年6月号の「市広報が届くまで...」です。市民と市政を結ぶ市広報みやざき。どのように作られて、皆さんの手元に届いていたのか、イラストで詳しく解説されています。



※QRコードの読み取りには、アプリ「QR・JANコード読み取りバーコードリーダー」を推奨しています。



現在の広報紙はこうして作られます



毎号、皆さんが手に取りたくなるような広報紙になるよう、表紙にこだわっています。また、漫画やイラストを用いるなど分かりやすい紙面づくりを心掛けています。



地名きたずねて 昭和36年5月 「つるのしま(鶴之島)」

昭和36年4月から連載されていた「地名をたずねて」。市内のいろいろな地名の由来を当時の文章をもとにお届けします。



写真は鶴之島町(当時) このあたりは戦後急に住宅がふえ今では三百六十戸、千四百人の人がすんでいる。中央はNHK宮崎放送局。

つるのしま 鶴之島は大淀川の北岸、橋の西の方の地名で、NHKの宮崎放送局があるので有名である。「中略」
大淀川のほとりで鶴の島というから鶴でも舞ってくように思われるが、この鶴は鳥のツルとはなんの関係もない。この西から北にかけて上水流(かみづ)下流(しもづ)という町がある。これが古い名でツルノシマのツルもほんとは水(みづ)である。河の流れが変化しても川(かわ)のあったところ(ところ)にできた土地をツル水流(つるのうみ)という。東臼杵郡北方村役場のある川水流(かわづ)、その他水流の地名は多い。「中略」
つまり大淀川がつくった川中の島であったのが、川の流れがだんだん南に寄ったので陸続きとなったわけで、もとは川の流れがつくった島であったから水流の島とよぶわけである。